

◎第20回定例会◎

4月20日（土）、宜野湾市の大山小学校にて、日本授業UD学会沖縄支部の第20回定例会が行われました。4月の忙しい時期にも関わらず、多くの先生方にご参加いただき、会場となった教室は、先生たちの熱気で満ちていました。今回は、明星大学教授の小貫 悟（こぬき さとる）先生と、沖縄支部の山田 秀人（やまだ ひでと）先生に講演いただき、学びを深めました。

○小貫 悟先生○

「子どもが輝く授業UDスタート講座」

新学習指導要領では、

- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
- ・障害のある児童（生徒）などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと

が求められているとのこと。

小貫先生は、それらに対応する一つの例が、

「授業のUD化」であることを話していました。「授業のUD化」とは、教科教育と特別支援教育の融合によって、これまでにない授業イメージ（どの子も楽しく「わかる・できる」授業）を作っていくこと。

このような「授業のUD化」のためには、考える時間を増やすということが求められ、授業を「焦点化」「視覚化」「共有化」していくことが大事だと話していました。加えて、授業を4つの階層として捉え、14の視点により「授業のUD化」をすすめる「授業のUD化モデル」（右記参照）についても紹介していました。

さらに小貫先生には、「授業UDを支える授業展開論」についても教えてもらいました。

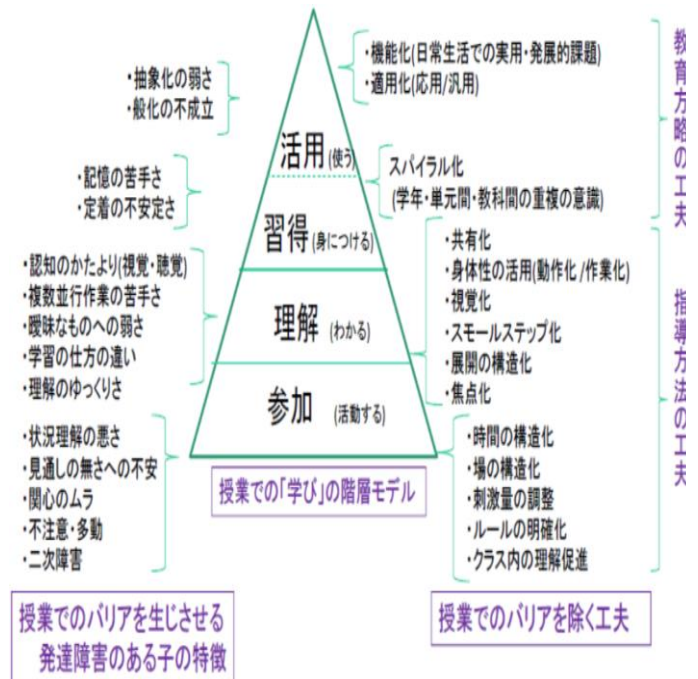
展開論のポイントは、

- ①論理に飛躍を作らないこと
- ②時間配分によって一つ一つの課題に集中できる
- ③論理的な理解に「情緒的反応（納得）」が加わるようにする

以上をふまえた上で、「授業構造」「山場の設定」の工夫が、授業展開上、大事になってくるとのことでした。

特に、児童の集中力が続く授業開始から25分以内に子どもが感動する場面を山場として設定。そこから授業の「必然」づくりとして、めあてを提示することを「基本のフレームワーク」として提案・強調していました。沖縄支部と桂 聖先生が実践した授業（「どきん」谷川 俊太郎）を例として提示し、その構造を比較して説明していたので、授業展開のコツがよく理解できました。

年間100以上もの研究授業を見ているからこそこの先生の話は、実践例も交えた内容で、勉強になりました。



小貫 悟「授業のUD化モデル」





○山田 秀人先生○

「国語授業 UD を支える授業技術」

沖縄支部の山田先生は、授業 UD をスタートするにあたっての基本的な授業技術について、国語を題材とし、模擬授業形式で話していました。

授業冒頭で行われる音読ですが、ただ音読するだけでなく、「マル読み」や「リレー読み」などの多様な音読によって児童の興味を惹きつけるとともに、授業の展開上、何のために、どのような音読をするのかを考えることが大事だとしていました。

さらに、模擬授業形式で、センテンスカードの書式や使い方等についても話していました。

一重に授業を UD 化すると言っても、どこに視点を置くのかによって、そのバリエーションは多様になるのであり、その奥深さについて理解できました。

○小貫 悟先生○

「教えて小貫先生 Q&A コーナー」

Q&A のコーナーでは、「これまで最も印象に残っている授業は？」「今日の前にいる『気になる子』が、どんな大人・社会人となるのか、その上でどんな課題があり、どのように関わっていくべきなのか」などという質問が挙がりました。

それに対して、小貫先生は、「先生が工夫し続けている授業がいい授業。なぜならそのような教師の姿勢を子どもは、モデリングするから」「どんな子になるのかという『個人レベル』の視点とともに、どのように環境に関わっていくのかという『環境レベル』の視点を持つことが大事としていました。

山田先生の模擬授業への解説も踏まえ、理論面と実践面の両方で、丁寧に応えてくれました。

3時間という中々の長丁場でしたが、小貫先生の講演が充実した内容だったので、時間は直ぐに過ぎ去ってしまいました。3時間の講演だったにも関わらず、先生方の顔つきは、講演前よりもどこか生き生きとしていて、教室にはさらなる熱気に満ち溢れているようでした。

